

2021年10月13日 全8頁

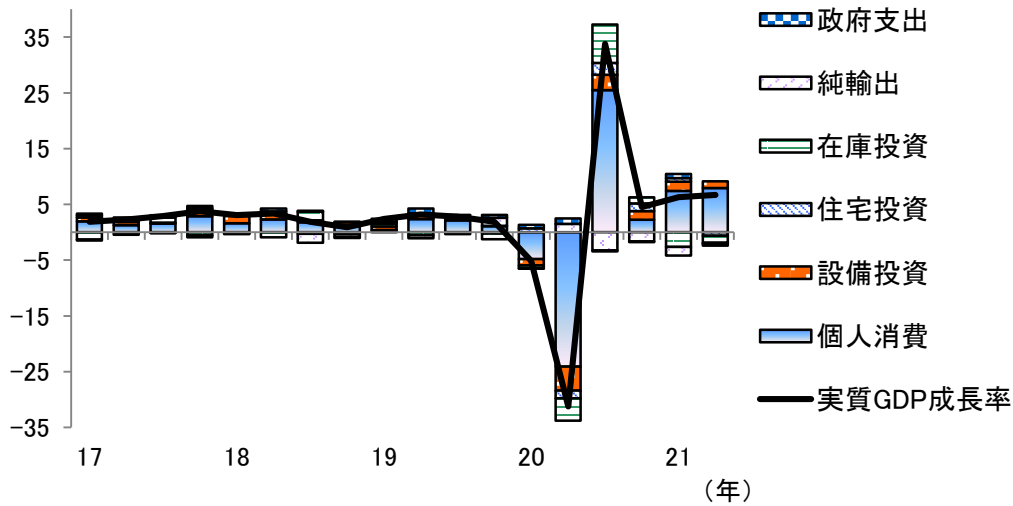
アメリカ経済グラフポケット (2021年10月号)

2021年10月11日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
研究員 矢作 大祐

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



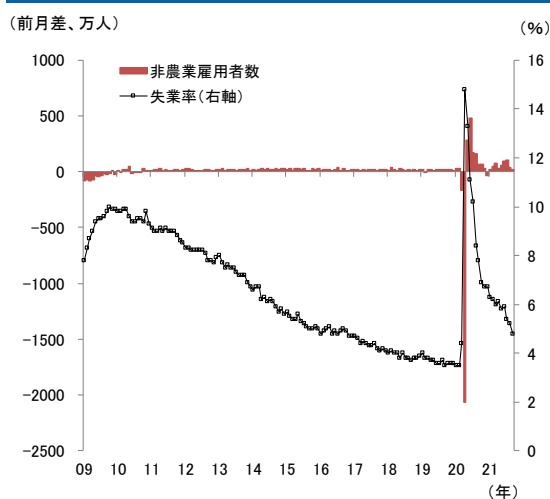
(前期比年率、%、%pt)	2019		2020				2021	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	2.8	1.9	-5.1	-31.2	33.8	4.5	6.3	6.7
個人消費	3.2	1.7	-6.9	-33.4	41.4	3.4	11.4	12.0
設備投資	2.9	-1.7	-8.1	-30.3	18.7	12.5	12.9	9.2
住宅投資	3.6	1.1	20.4	-30.7	59.9	34.4	13.3	-11.7
政府支出	2.1	3.0	3.7	3.9	-2.1	-0.5	4.2	-2.0
輸出	-0.8	1.2	-16.3	-59.9	54.5	22.5	-2.9	7.6
輸入	-1.1	-8.5	-13.1	-53.1	89.2	31.3	9.3	7.1
寄与度								
個人消費	2.1	1.1	-4.8	-24.1	25.5	2.3	7.4	7.9
設備投資	0.4	-0.2	-1.1	-4.3	2.7	1.6	1.7	1.2
住宅投資	0.1	0.0	0.7	-1.4	2.2	1.3	0.6	-0.6
在庫投資	-0.3	-1.0	-0.5	-4.0	6.8	1.1	-2.6	-1.3
政府支出	0.4	0.5	0.6	1.0	-0.2	-0.1	0.8	-0.4
輸出	-0.1	0.2	-2.0	-8.3	4.6	2.1	-0.3	0.8
輸入	0.2	1.3	1.9	9.9	-7.9	-3.7	-1.3	-1.0

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

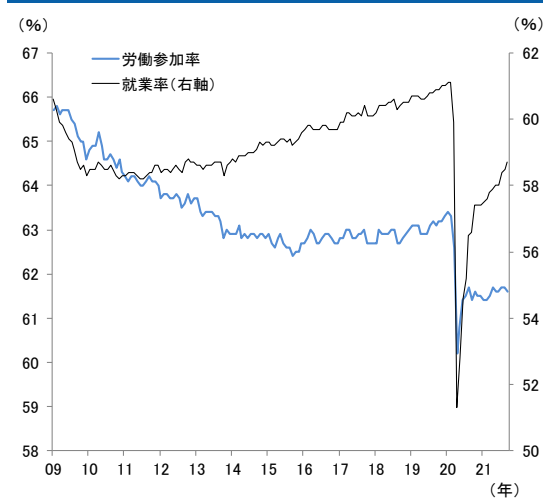
- ◆ 9月の失業率は4.8%となり、前月から0.4%pt低下した。労働参加率の回復が進まない半面、失業者数が減少し、就業者数が増加したことが押し下げ要因となり、失業率は3ヵ月連続で改善し、2020年3月以来の低水準となった。
- ◆ 9月の非農業部門雇用者数の前月差は19.4万人増となった。サービス部門における雇用者数の伸びが低調だったほか、季節調整の歪みで政府部門の雇用者数が減少し、前月から伸びがさらに減速した。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は58.3万人増となった。

非農業雇用者数と失業率



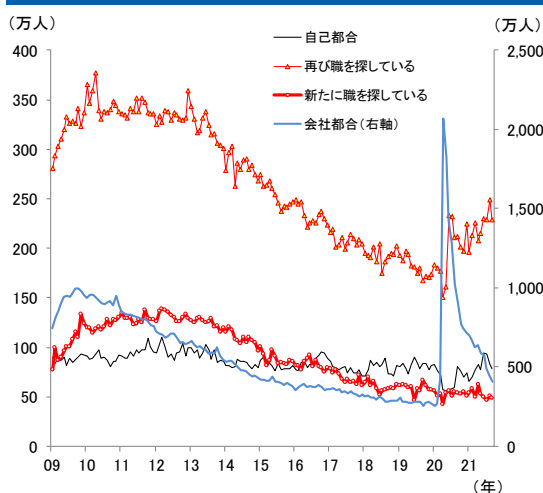
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



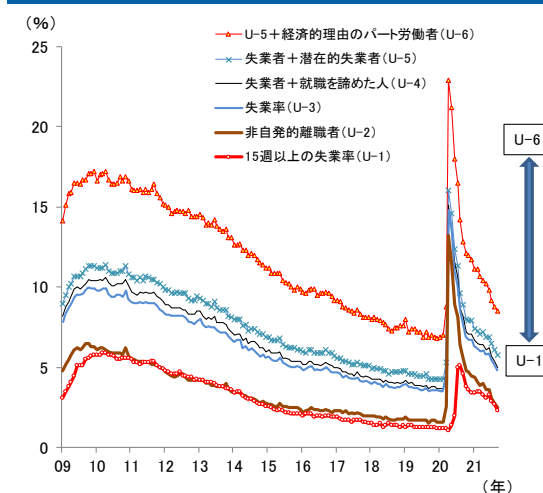
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

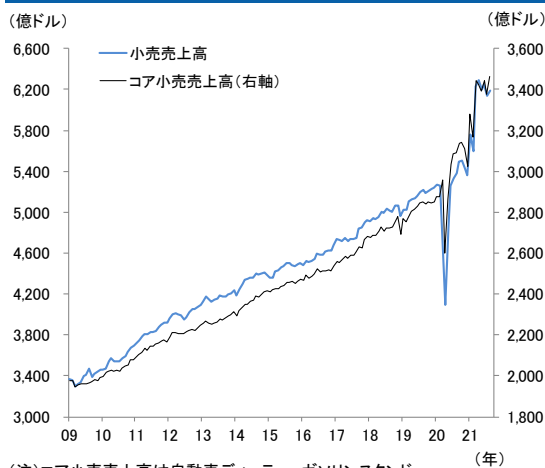
¹ 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数は前月差+19.4万人とさらに減速」(2021年10月11日)参照。

https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20211011_022572.html

個人消費

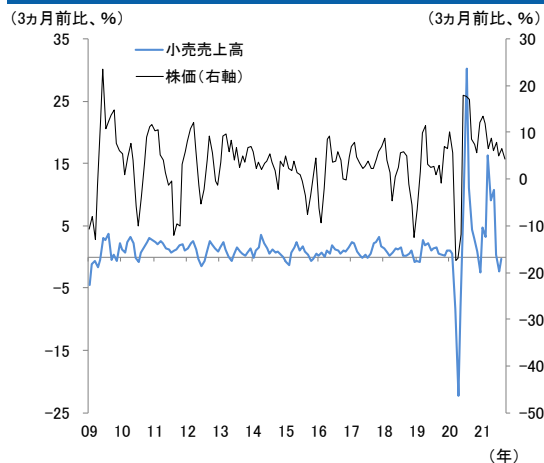
- ◆ 8月の小売売上高は前月比0.7%増となった。前月からの反動に加え、学校の新年度開始を控えた商戦などが寄与したものとみられ、新型コロナウイルスのデルタ株の急速な感染拡大にもかかわらず増加に転じた。コア小売売上高は同2.5%増となり、増加に転じた。
- ◆ 9月の自動車販売台数は前月比6.1%減少し、年率換算で1,238万台となった。長引く半導体不足に起因した生産遅延による在庫不足などが響き、5ヵ月連続で減少し、2020年5月以来の低水準となった。
- ◆ 9月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の70.3から72.8へと上昇した。2011年12月以来の低水準となった前月からは上昇したものの、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大やインフレ懸念などが重石となり、低水準にとどまった。

小売売上高の推移



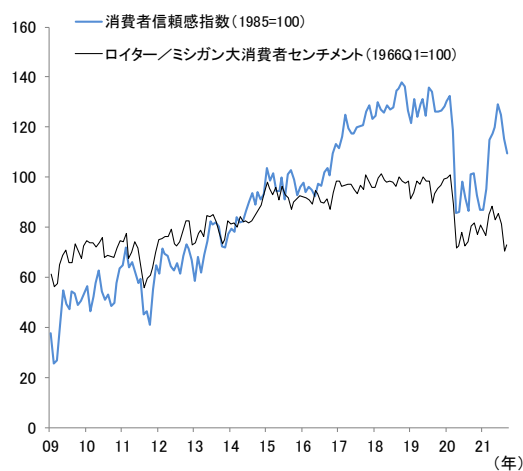
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



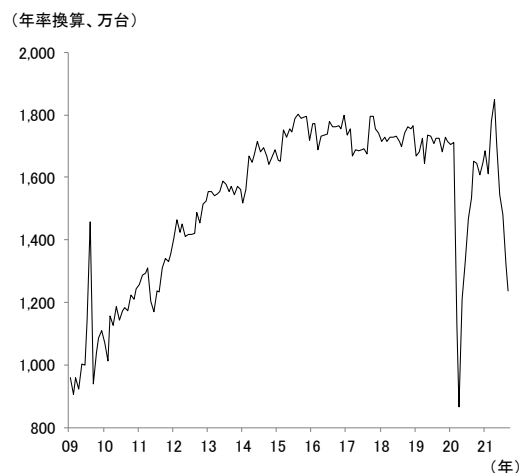
(注) 株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅市場

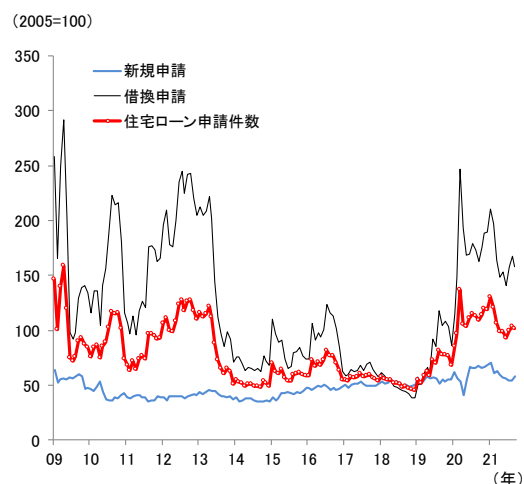
- ◆ 8月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比3.9%増の年率換算161.5万戸となった。一戸建ての着工は減少したものの、集合住宅の着工増が押し上げ要因となり、増加に転じた。
- ◆ 8月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比1.9%減の年率換算519.0万戸であった。在庫不足の影響による住宅価格の高止まりで買い控えられたものとみられ、3ヵ月ぶりに減少した。
- ◆ 8月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比1.5%増の年率換算74.0万戸となった。販売価格の中央値は前月の過去最高値から横ばいとなった一方、供給の回復を受けて販売は2ヵ月連続で増加し、2021年4月以来の水準となった。
- ◆ 7月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.5%上昇した。前月から上昇率が若干低下したが、住宅需給のひっ迫が住宅価格を押し上げている。

住宅販売（一戸建て）



(出所) Census, NAR, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅ローン申請件数



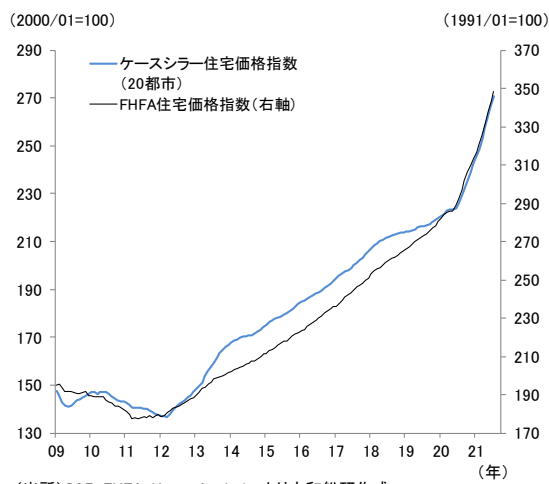
(出所) MBA, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅着工と建設業者の景況感



(出所) Census, NAHB, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅価格

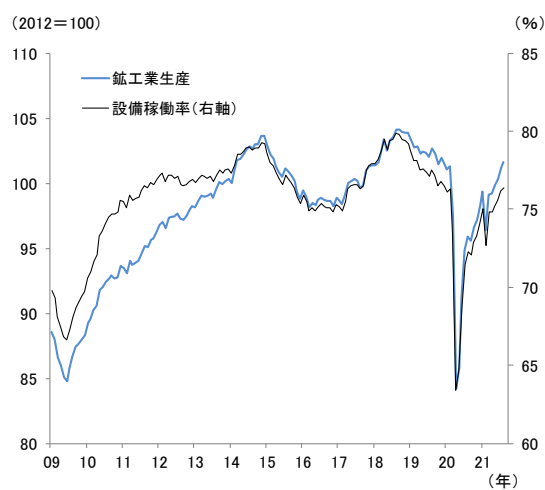


(出所) S&P, FHFA, Haver Analyticsより大和総研作成

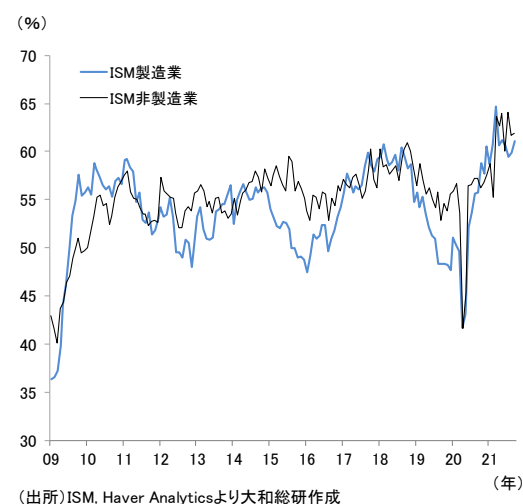
企業動向

- ◆ 8月の鉱工業生産指数は前月比0.4%上昇し、6ヵ月連続の上昇となった。ハリケーン・アイダの影響があったものの、生産指数全体の約75%を占める製造業（SICベース）が同0.2%上昇したほか、猛暑によるエアコン需要の増加で公益部門が大幅に上昇し、全体の指数を押し上げた。
- ◆ 8月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.6%増となった。経済回復に伴う製造業の堅調さが持続する中、コンピューターなどの需要が強く、6ヵ月連続で増加し、パンデミック前の水準を大きく上回る状況が続いている。
- ◆ 9月のISM製造業指数は前月から1.2%pt上昇の61.1%となった。供給不足が懸念される一方で堅調な需要に支えられ、2ヵ月連続で上昇し、5月以来の高水準となった。非製造業指数は前月から0.2%pt上昇の61.9%となった。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大の影響でわずかな上昇にとどまったものの、7ヵ月連続で60%超の高水準となった。

鉱工業生産と設備稼働率



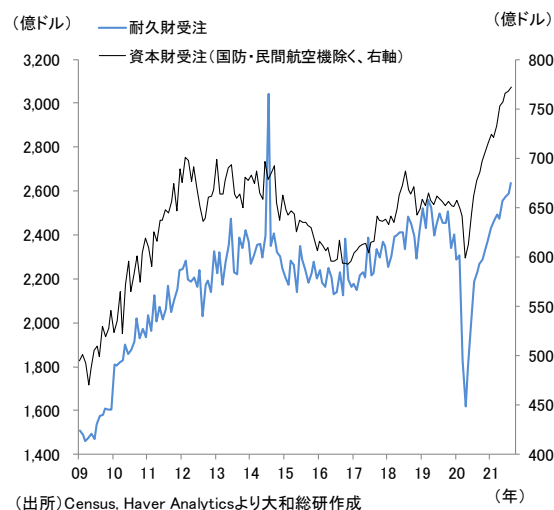
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



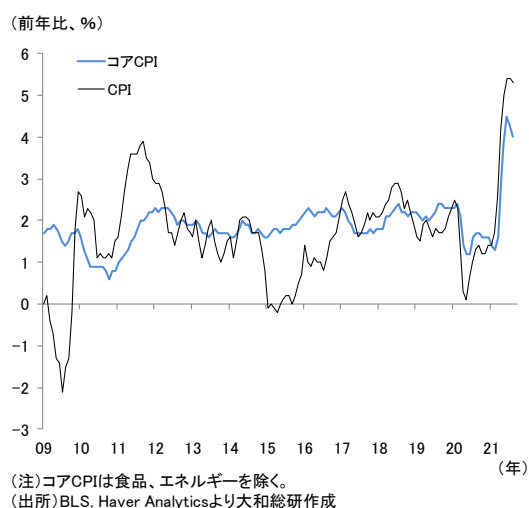
耐久財受注



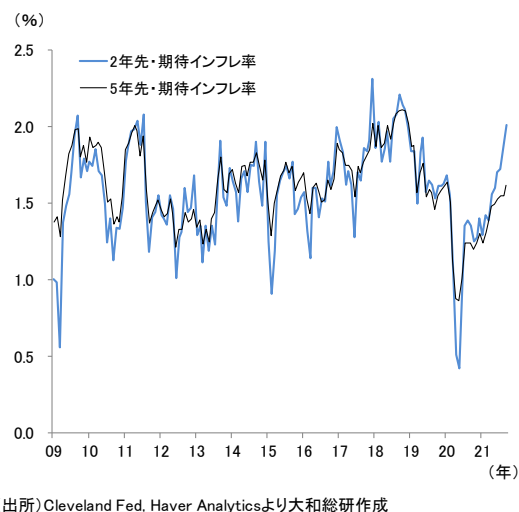
物価動向

- ◆ 8月のCPI（消費者物価指数）は前年比5.3%上昇した。2020年10月以来の前年比上昇幅縮小となったが、4ヵ月連続で5%を越す高い伸びを記録した。コアCPIは同4.0%上昇し、2ヵ月連続で伸びが減速した。
- ◆ 9月の2年先期待インフレ率は2.01%となり、6ヵ月連続で前月から上昇し、2018年11月以来の高水準となった。5年先期待インフレ率は1.62%で前月から上昇し、2020年1月以来の高水準となった。
- ◆ 9月末のWTI原油先物価格は75.03ドル/バレルとなり、8月末の68.50ドル/バレルから上昇した。在庫減やハリケーン・アイダの影響による供給制約、また、天然ガス不足も重なり、月末値は2014年10月以来の高値となった。

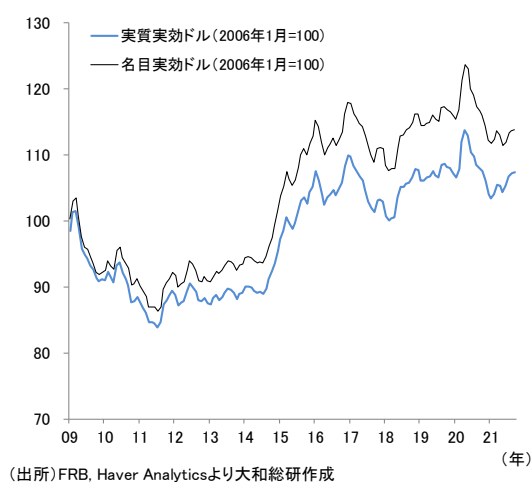
消費者物価指数



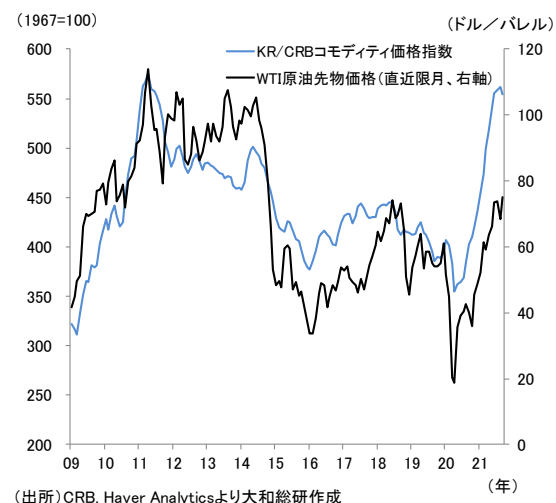
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



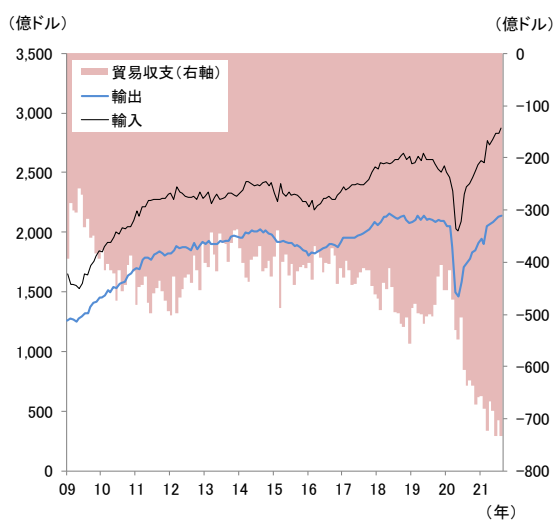
コモディティ価格



輸出入・経常収支

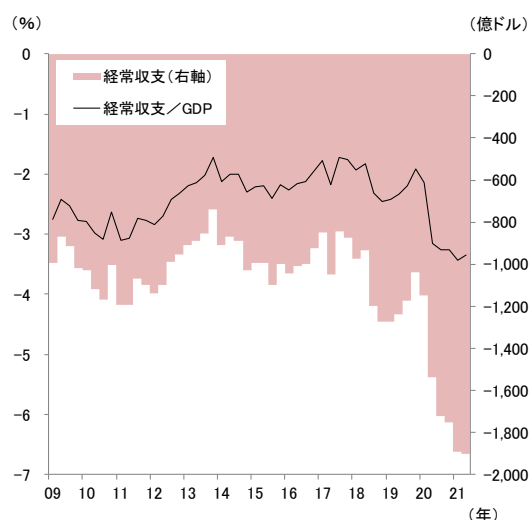
- ◆ 8月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.5%増加し、輸入は同1.4%増加した。この結果、貿易赤字は同4.2%増の733億ドルとなり、2ヵ月ぶりに拡大した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では非貨幣用金などの工業製品・原料が主に増加し、輸入においては医薬品といった消費財の増加が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比2.7%増加したほか、日本向けが同17.2%増、欧州向けも同21.9%増加した。中国向けの輸出の伸び率が鈍化した一方で、日本と欧州向けは5ヵ月連続で二桁台の大幅増となった。輸入に関しては、中国からの輸入が同5.4%増、欧州からは同21.9%増、日本からは同27.6%増となった。中国からの輸入は増加に転じ、日本と欧州からの輸入は5ヵ月連続で二桁の伸びとなった。

貿易収支動向



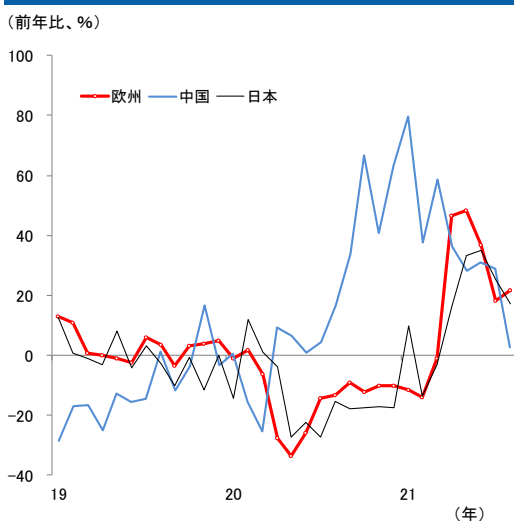
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

経常収支の推移



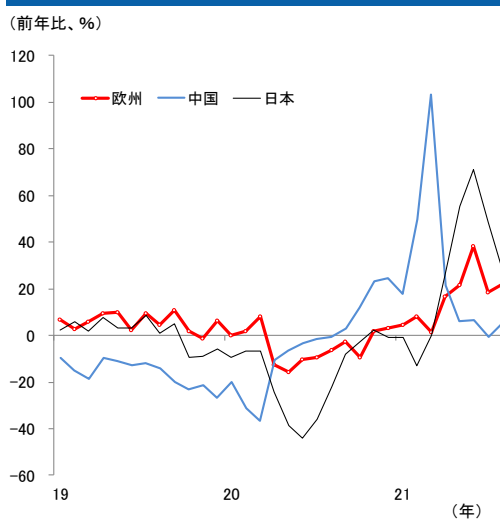
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸入動向

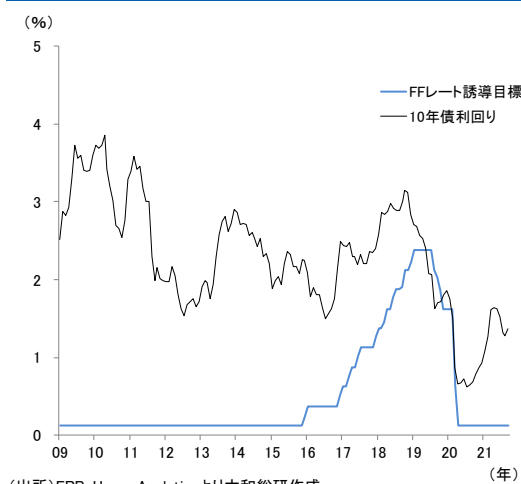


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

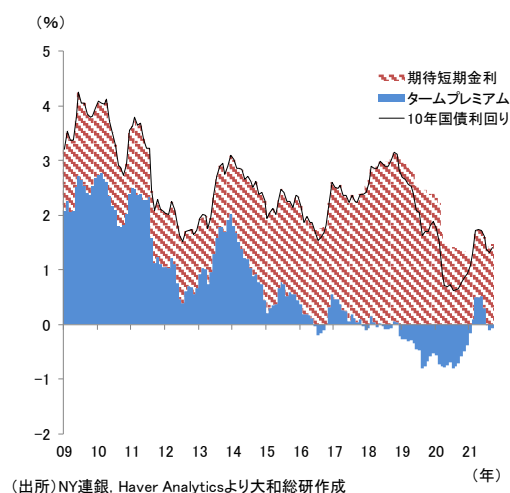
金融・財政

- ◆ 9月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レート目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれ、国債などの購入規模を変更しないことが決定された²。また、量的緩和の段階的縮小が11月に公表される可能性が高まった。10月6日の週のFRBの資産残高は平均で約8兆5,000億ドルであった。
- ◆ 9月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.37%となった。FOMCにおいて量的緩和の段階的縮小が11月に公表される可能性が高まったことなどから、下旬にかけて急速に上昇した。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は赤字幅が高水準で推移しているが、2ヵ月ぶりに縮小した。

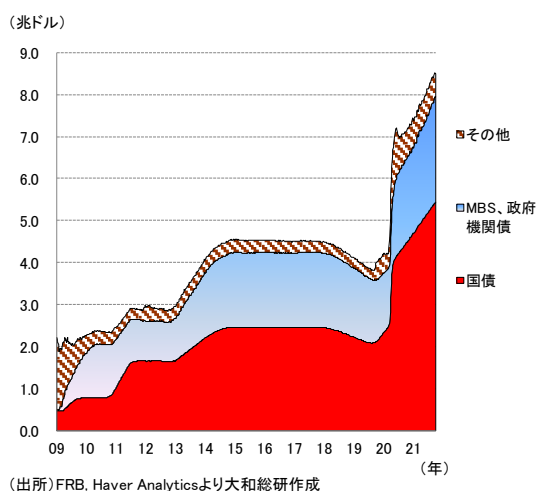
政策金利・長期金利



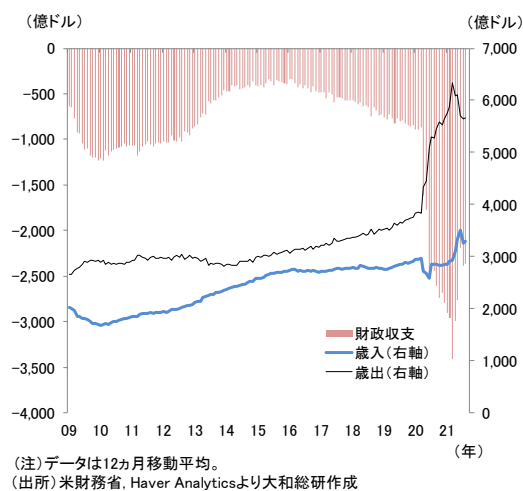
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC 11月のテーパリング公表へ」（2021年9月24日）参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210924_022546.html